

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	24666	
事業名	はつらつシニアサポート費						
評価担当課	所属名	保) 高齢保健福 高齢福祉課					
	課長名	石崎 憲史	担当者名	内湯 慎平	電話番号	011-211-2976	
施策名	主	地域活動を活発化する環境づくり					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	高齢者の社会貢献につながる生きがい活動を支援(AP2019数値目標:シニアサロン1か所当たりの延べ利用者数2022年度 2,200人)				
		長期	少子高齢化が進展する中で、元気高齢者による自主的な社会貢献活動を今後さらに活性化させるべく支援を継続していく必要がある。				
	取組内容	高齢者の地域貢献に結びつけるきっかけとなるような生きがい活動で、高齢者団体の自主的な運営により実施される事業に対して支援を行う。シニアサロンモデル事業、シニアチャレンジ事業を実施している。 ①補助金(シニアサロンモデル事業、シニアチャレンジ事業)の交付 ②事業評価委員会の開催 ③申請時等における書類作成の支援					
	実施結果	【令和3年度補助交付団体】 シニアサロン 0件 シニアチャレンジ 1件					
事業実施における工夫点	補助決定にあたっては、学識経験者等から構成される評価委員会において専門的な見地から申請案件の審査を行ったうえで、補助対象団体を選定している。						
対象者	市内の高齢者団体等			開始	平成17年度	終了	0 年度
関連法令・条約・要綱等	札幌市シニアサロンモデル事業補助金交付要綱 札幌市シニアチャレンジ事業補助金交付要綱						
他都市の状況	【類似事業】 北九州市(高齢者地域活動助成事業)など						

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	0	3,500	219	3,500	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	0.5	0.5	0.5	0.5	
人件費	3,600	3,600	3,600	3,600	
計(事業費+人件費)	3,600	7,100	3,819	7,100	
事業費の内訳	令和3年度決算	評価委員会委員・事業評価検討委員への報酬(01-03):63千円 シニアチャレンジ事業補助金(18-02):156千円			
	令和4年度予算	評価委員会委員・事業評価検討委員への報酬(01-03):501千円 立ち上げ支援謝礼(07-00):150千円 旅費(11-01):519千円 シニアサロンモデル事業補助金(18-02):1,830千円 シニアチャレンジ事業補助金(18-02):500千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	シニアサロンモデル事業設置数(累計)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	10か所	10か所	9か所	9か所	
	指標名				
活動指標2	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	指標名	シニアサロン1か所当たりの延べ利用者数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標1	1,252人	2,200人	775人	2,200人	
	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標2	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	指標名				
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	活動を行う高齢者の生きがいづくりだけではなく、高齢者全体の居場所づくりを進めるとともに、高齢者の外出機会の創出を通じた孤立化の防止、さらには地域住民同士の相互扶助の促進による地域福祉力の向上などに寄与している。しかしながら、運営団体の高齢化などにより、補助終了後は活動を継続していくことが困難になる団体も出てきている。また、近年は補助件数が予定数を下回る状況が続いている。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	充実した地域貢献活動等を継続して行うには一定の経費が必要である。特に常設のサロンを運営するシニアサロンモデル事業については、建物賃借料等の固定費に加え、サロン立ち上げ時には内外装費や普及宣伝費を要する。このため初期投資として手厚い支援が必要であり、実態に応じ規模を見直ししながら、支援を継続する必要がある。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	B	シニアサロンモデル事業について、補助終了後の自立運営を促すために補助率を段階的に引き下げているが、それでも活動継続が高いハードルとなっていることが見受けられる。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	B	活動を行う高齢者の生きがいづくりだけではなく、高齢者全体の居場所づくりを進めるとともに、高齢者の外出機会の創出を通じた孤立化の防止、さらには地域住民同士の相互扶助の促進による地域福祉力の向上などに寄与しているが、近年は補助件数が予定数を下回る状況が続いており、利用者も減少傾向にある。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input checked="" type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外    市民参加結果への対応 <input checked="" type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	補助終了後に活動を継続していくことが困難になる団体が出てきており、また、近年は補助件数が予定数を下回る状況が続いていることを受け、必要に応じて補助制度の見直しを検討する必要がある。				
前回の評価	○ A    ● B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし			見直し効果額 (前年度)	0千円
今回の評価	○ A    ● B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	補助終了後に活動を継続していくことが困難になる団体が出てきており、また、近年は補助件数が予定数を下回る状況が続いている状況を受け、引き続き補助制度の見直しを検討する必要がある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 補助終了後に活動を継続していくことが困難になる団体が出てきており、また、近年は補助件数が予定数を下回る状況が続いている状況を受け、引き続き補助制度の見直しを検討する。			
	予算	○ 拡充    ● 現状維持    ○ 縮小    ○ その他 同程度の予算を確保する。			見直し効果額